

フェアプレイ
インタビュー
[サッカー1日テレビリーグ開幕
選手]
初木結花



プロフイール
生年月日: 1996年4月9日
出身地: アメリカ合衆国ニューヨーク州
好きな食べ物: 焼肉
**サッカー女子日本代表
(なでしこジャパン)**



フェアプレイに触れた
小学校の大会

話します。「すごいことをして勝つても嬉しくないし、相手も負けを認めたくないはず。正々堂々と戦うからこそ、負けることからも学びがあるし、勝つことも、それ以上に意味があります」と信念を伝えてくれました。

また、初木選手は「常に謙虚でいること、相手を尊敬する気持ちを忘れないこと、感謝の気持ち」を大事にしています。そして、「どれだけ選手として高いレベルに行っても、毎日成長していきたい」と話してくれました。

感謝の気持ちを忘れずに
日々成長していきたい

決め、優勝しました。



負けず嫌いだっただけ幼少期
初木結花選手は父の影響でサッカーを始め、幼い頃から「試合では絶対に負けたくない」と思っていたそうです。毎日サッカーの練習に没頭し、中学生になると各世代別の日本代表に選ばれました。そして、中学3年生の時には、16歳以下のアジアの女子選手権に出場し、最終戦ではゴールを

負けることにも意味がある
「競技生活を通して、年を重ねるごとに、よりフェアプレイの精神を大事にするようになった」と

12歳以下のサッカーの大会では審判がフェアプレイ精神を発揮した選手を讃える「グリーンカード」を示します。初木選手はこのカードを通してフェアプレイヤーへの意識が芽生えたと話します。小学生の時の全国大会で、ボールが外に出た時には、相手チームのボールでも率先して取りに行ったそうです。この行動に対してグリーンカードをもらい、「相手を思いやりながら、一緒に試合を作り上げて行く」という気持ちを学びましたと教えてくれました。

初木選手の得意なプレー

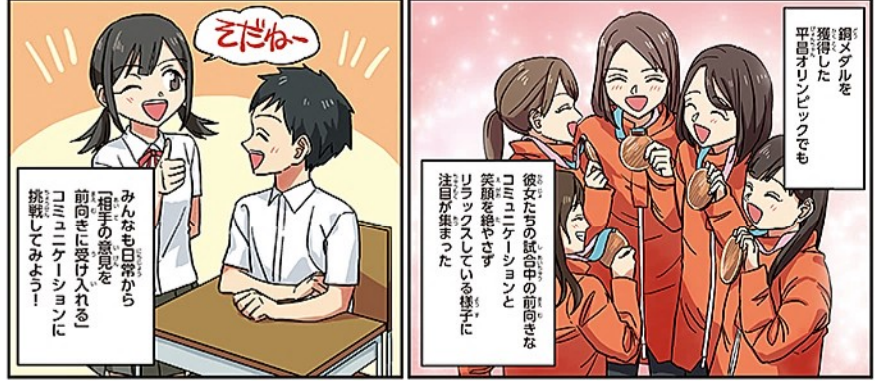
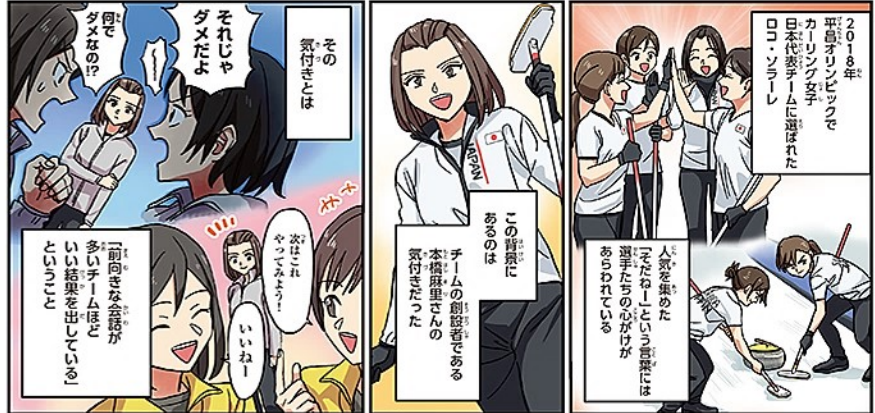
駆け引き

ドリブル、パスだけでなくボールが無い時にも常に相手選手の動きをよく見て、思う方と違う方向を攻めるプレーが得意です。



相手選手の逆を取る動きが得意!

相手を受け入れるコミュニケーション



コミュニケーション

「前向きな姿勢が多い結果を出している」ということ
「お互いを受け入れようという前向きな言葉を返すことをチーム全員で意識した」
「この作戦で、いっしょにやってみようか!」
「みんなも口癖から相手の意見を受け入れ、コミュニケーションに挑戦してみよう!」
「彼女たちの試合中の前向きなコミュニケーションを笑顔で絶やさずリラックスしている様子に注目が集まった」
「ダブルを獲得した平昌オリンピックでも」